

2019年度 埼玉東上地域教育プラットフォーム高等学校調査報告書

調査年度：2019年度

調査対象高等学校：プラットフォーム参加大学・短大による高等学校訪問でデータ提供した高等学校（非公開）

調査対象：2019年3月卒業生

報告者：長原礼宗（東京電機大学）

報告日：2019年9月6日

1.高等学校への調査目的

埼玉東上地域教育プラットフォーム(TJUP)では、地元生まれ育った人が、地元で学び地元で活躍できる地域づくりに貢献することを目的に活動を行っている。そこで、TJUP参加大学・短大近隣の高等学校におもに依頼し、地域の高等学校のニーズを把握し、今後の方針・展開を検討するために以下の調査を行った。

2.調査結果

1)埼玉県内大学・短大への進学率

調査した高等学校の大学・短大進学率は平均して **53%**であった。2018年度の大学・短大進学率（現役）の全国平均は55%であり（文部科学省令和元年度学校基本調査）、今回の調査高等学校の進学率は全国平均よりもやや低いといえる。

しかし、調査対象高等学校から埼玉県内大学・短大への進学率は **24%**と非常に少ない。自県内大学に進学した全国平均は43%であり、埼玉県の高校生は他の地域にある大学へと進学する傾向が顕著であることが明らかになった。

2)地域に必要な大学・短大の学問分野

高等学校に、埼玉県に必要な大学・短大の学問分野を聞いたところ、図1のような結果となった。人文科学・社会科学といった文化系学問の比率が多く、また理科系学問では工学や医療・保健といった実社会に役に立つ学問へのニーズが高等学校教員側では大きいことがわかった。

では実際に、高校生が進学した学問分野について調査した結果が図2である。図2からは、社会科学分野に進学する高校生の割合が、高等学校教員側が望む進学率よりも非常に多いことがわかる。社会科学分野には、法学・政治学・経済学・経営学・社会学が当てはまり、昨年度の本調査と比較しても、同分野への進学率がかなり多い結果となっている。これは、景気などの社会情勢の影響なのか、継続的に調査する必要がある。

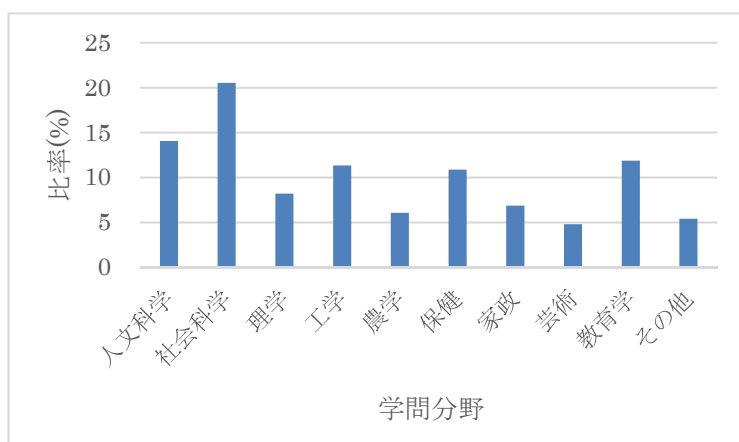


図1.高等学校教員が地域に必要と思う大学・短大の学問分野比率

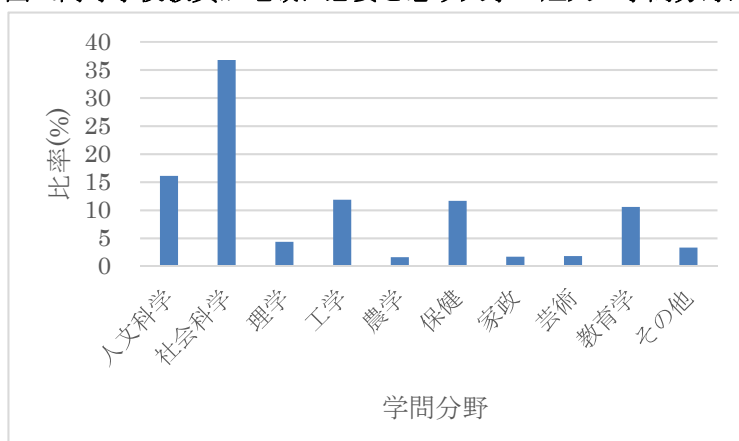


図2.高校生が進学した先の大学・短大学問分野比率

3)大学・短大との連携

現在までに行っている高大連携について調査したところ、

- ・出張講義
- ・キャリア（進路）教育
- ・医療講座、栄養講座
- ・進路講演会

といった、主に将来の進路意識を高める観点での連携が挙げられた。

4)埼玉県の大学・短大への期待

埼玉県の大学・短大に対する期待を自由回答で記載してもらったところ、

・都内の大学にはない魅力を打ち出していきたい。
・AOを含めた推薦入試の枠の中で、自治体、近隣の小中学校、企業、NPO団体などとの連携をもとにした探求授業に積極的に関わった生徒を評価し、大学入学後の研究につなげられるような仕組みを整備していただきたい。

- ・獣医学部の設置
- ・地元で教育を受け就職することで、地域活性化をすすめてほしい。
- ・大学生による高校生のための進路相談会の開催
- ・地元企業との太いパイプ、大学院の充実
- ・頑張ってください。
- ・地域に貢献する人材の育成。専門性の高い教育。
- ・地域で活躍できる人材の育成をお願いします。
- ・オープンキャンパスや授業公開等、各大学が行っている様々な取り組みについて、(教員の説明からでなく)生徒たちが直接活用しやすいよう「生徒に届きやすい言葉」でアプローチをしていただけると大変ありがたいです。
- ・企業とのつながりを強固にして学生に就職先を確実に提供できるようにしていただきたいと思います。

といったさまざまな貴重な意見が得られた。

3.まとめ

TJUP 参加大学・短大は高等学校教員が地域に必要と思っている学問分野を有しており、その比率もニーズと合致している。これから、TJUP 参加大学・短大と、地元の高等学校との話し合いを密に行い、高校生が地元の大学・短大に進学したいと思える、教育の「見える化」を進める為にこれまで以上の連携方法を検討する必要がある。